

伝言板 No.8

発行 H18.12
NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

「みなとパネル展」・「みなと座談会」 および「地域懇談会」の開催について

「ザ・シンポジウムみなと in 室蘭」との協賛行事として、10月21日から22日の2日間、主催：室蘭開発建設部 室蘭港湾事務所・NPO 法人北海道みなとの文化振興機構の共催による「みなとパネル展」を開催しました。

また27日に当法人と「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」共催による「みなと座談会」および「地域懇談会」を開催しました。

みなとパネル展

「海・港・暮らしを地域で考える「みなとパネル展」は、市内の道の駅「みたら室蘭」で開催しました。

パネル展の開催に先立ち21日9時30分からテープカットを行い、繁本室蘭港湾事務所長の挨拶に始まり、奈良岡室蘭市港湾部長、立野室蘭ユネスコ協会会長、間嶋北海道みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭会員、小泉当法人理事長など一堂に会し和やかな雰囲気の中で開催されました。

このパネル展は、「ザ・シンポジウムみなと in 室蘭」との共通テーマである「環境産業による地域活性化」を念頭に、地域づくりを家族で考えるきっかけになるような展開を願って開催しました。

けになるような展開を願って開催しました。

この2日間での来場者は市内が3割、道内各地から7割のおよそ560名でありました。使用パネルは、企業の環境への取組みについて説明した、市内基幹産業所有のパネル等を使用、その他、来場者へのアンケート調査、クイズラリー、記念グッズ、写真撮影等を行った。

〈みなとパネル展〉



オープニングセレモニー



◀ 会場の様子



◀ 会場内パネル



◀ 記念撮影 ハイチーズ!!

「みなと座談会」——文化とまちづくりにかかわる室蘭港——

室蘭市内でまちづくり活動に取り組んでいる女性達で、それぞれ地域づくりを幅広い活動を通じて実践してきた中から、室蘭の未来について熱い想いを1時間30分にわたって議論していただきました。

なお、この座談会には、来賓として北海道開発局港湾空港部長が出席されたほか、オブザーバーとして室蘭市の港湾部長・建設課長、そして、北海道開発局港湾計画課企画官・計画担当係長、室蘭開発建設部次長・港湾事務所長の他、札幌、函館、苫小牧、留萌、紋別などの各地から「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」の会員が傍聴し、座談会終了後、合同で「地域懇談会」を開催して、座談会の感想などを交えながら地域づくりについて意見交換をしました。

1. 日時 平成18年10月27日(金)10時30分

2. 会場 室蘭港フェリーターミナル会議室

3. 出席者 山田 容子

(白鳥大橋ハッピープロジェクト代表)

栗山美智子

(室蘭ジャズクルーズ実行委員)

三宅 美与

(ほこいふじエンターテイメント会員)

菅原 桂子

(登別・室蘭青年会議所理事長)

中越 小夜

(室蘭漁業組合女性部長、北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会員)

(司会) 立野 了子

(室蘭ユネスコ協会会長、北海道みなとまちづくり女性ネットワーク会員)

開催に先きだち、北海道開発局港湾空港部の中村部長から「みなとや街の活性化などのソフトな面では企業ばかりでなく、その地に住んでおる方々と一緒にやっていくのが望ましく、女性の視点で忌憚のないご意見を伺い今後の行政の参考とさせて頂きたい」との来賓挨拶がありました。

はじめに、座談会出席者の紹介を「NPO 法人北海道みなとの文化振興機構事務局」より行い、その後、まちづくり女性ネットワーク室蘭会長立野了子さんの司会により「みなと座談会」に入りました。

立野さん 本日の司会の役を仰せつかりました、立野です。本日はこの座談会にお忙しい中、皆さんお集まり頂きましてありがとうございます。

それでは、早速、座談会に入らせて頂きます。

本日は、「まちづくり女性ネットワーク」の生きのいいところが、今、私の後ろにいて、興味津々といらっしゃるようでございますけれども、きょうは皆さん、中村部長さんのお話にもありました、忌憚のないところで、普段の活動や苦労話など、皆さんのいろいろな思いをぎっくばらんにお話しして頂けれ

ばと思います。

私は、室蘭生まれの室蘭育ちで、音楽家として育ったのですけれども、ずっと港を毎日眺めて、港の風を受けて育ったのかなと自分で思っております。それで、私はそれも、この室蘭の港のいい風に吹かれて、音楽は自然の中で自分に与えられた仕事だったなど毎日思いながら、今も八幡神社から毎日港を眺めております。きょうは室蘭で活躍していらっしゃる皆さんに、最初に自己紹介を兼ねまして、お願いしたいと思います。

始めに、山田さんから、どうぞ、



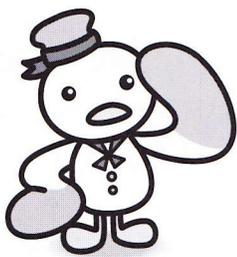
山田さん 「白鳥大橋ハッピープロジェクト代表」の山田容子と申します。

「白鳥大橋ハッピープロジェクト」というのは、白鳥大橋、今朝ほど船で橋の下をくぐりましたけれども、橋をカップルで渡ると結ばれるといううわさが札幌から流れてきて、室蘭発ではないのです。それで、そのうわさをもとに町を盛り上げようということで、メンバーは20代から30代ぐらいの若手を中心に、今年の3月に発足しました。

当初は、うわさでこそ始まったので、1年間活動してすぐにやめようということだったのですが、それが意外な盛り上がりを見せまして、結局、今現在まで続く形になってしまいました。特に何をやっているのか、ちょっと私の方でも説明しがたいところなのですが、**基本的には勢いと乗りだけで、その場でやりたいことだけ**をやっています。例えば、地図、ラプリー地図というのですが、室蘭市内の私たちがお勧めの観光マップを作りまして、それがなかなか好評でして、道の駅等で配布しております。

あとは、何か物を作りたいということで、絵馬、なぜ絵馬を作ることになったかよく分からないのですが、絵馬を作りまして、それがまた、ちょうど発売して1年たちましたので、また近く、新しいバージョンの絵馬が登場します。ちなみに、ここに書かれたキャラクターは、私自身が書いています。あとは、例えば、ほかの企業の方が、例えばこういうお店のメニューを出したいということがあれば、こちらで勝手にメニューを考案し、あと雪が降れば、雪像つくりたいと私が言えばみんなで雪像作ったりとか、本当に自分たちの好き勝手にやっている団体です。

きょうは、橋と港をまたいでいるからと、自分たちの活動を無理やりこじつけることなく、ほかにもいろいろな団体等で活動させて頂いておりますので、いろ



いろな話を織り交ぜて聞いて頂ければと思います。きょうはよろしく願いいたします。

立野さん ありがとうございます。それでは、今、山田さんの活動、立ち上げから、今していることを兼ねた御紹介でございました。それでは、栗山さん。

栗山さん 私は、「室蘭ジャズクルーズ」に所属しております栗山美智子と申します。

先ほど、室蘭港を船で見せて頂いたのですが、私、室蘭生まれの室蘭育ちなのですが、海から室蘭港を見るというのが初めてで、ちょっと知らなさすぎだったと驚いている部分があるのです。防災フロートって見たことはあったのですが、実際あれは何だろうという話を友人としていたり、きょうはこういうことに使うのだということを知りました。何も知らなくて、港はちょっと考えてみると、当たり前にあるものだったのですよ、ずっと。目の前にあったのですが、特に違和感もなく、ぼんやりとした感じだったのです。港という感じが。今回この港というテーマで考えて、いろいろと宝物があると感じました。

そして、私が港を知ったというのが、この室蘭ジャズクルーズに入って活動を進める中でなのですが、まず、ジャズクルーズというのが、**ジャズを通して、音楽を通して室蘭を盛り上げたいとか、活性化させたい、みんなと一体となって盛り上げたい**という趣旨でやっているのですが、ことしも近くの中央埠頭倉庫という大きな倉庫でやっているのですが、私もジャズクルーズに行き参加して、初めてその場所を知りました。その場所を知って、そういう場所があったんだと感じて、**この工業地帯の港と工場と、何かそういうシチュエーションと音楽とを合わせると、すごく素敵だな**というのを改めて知ったのですよ。

私が住んでいながら、これだけ室蘭をあまり知らなかったところから、ジャズクルーズをきっかけとして室蘭を知り、港を知って、ちょっと港に関心を

持った、町に関心を持ったということは、多分私みたいな人が室蘭にはすごくたくさん居ると思うのです。特に市民が、あそこの中央埠頭にそう寄ることもないと思うので、多分私みたいな人がたくさん居ると思う。私がこれだけ興味を持ったということは、ほかの人にもちょっとは知ってもらいたいし、もっと一人ずつが視点を向けると、もっといい町になるのではないかと思います。

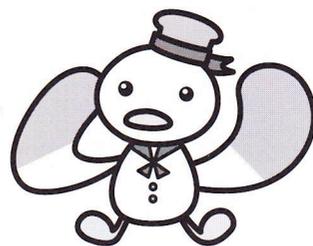
そこで、ジャズクルーズで知って、もちろんまちづくり、港、そして女性、今回は女性のネットワークということなので、すごくジャズクルーズの趣旨と合っているところがあると思いました。女性という立場から、ジャズクルーズは、団体としては、実行委員、レギュラークルーと呼んでいるのですが、それが大体、常に動いているのが30人ぐらいなのです。当日はボランティアも含めて150人ぐらいはいろいろな形で手伝ってもらっているのです。

まちづくりというところでの公立市民大学の学生さん、60代、70代もいらっしゃるのですけれども、高校生から70代までのボランティアの方も一緒に、市役所の方も一緒につくっていくものなのですけれども、ちょっと私がジャズクルーズの中で頑張っている中では女性の数がちょっと少ないのです。実際動いているのは15人いるかなという感じなので、まだまだきめ細かな対応に欠けている部分があると思ったので、きょうは女性の立場から、港ということを通していろいろ意見を言って、持ち帰って、まちづくりとか、また次のジャズクルーズに活かしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

立野さん ありがとうございます。栗山さんは、ジャズクルーズには3回目からお手伝いをなさって、お話に聞くとところによると、ジャズクルーズで御主人と、ということを目にしたのですけれども、愛のかけ橋でないのですけれども、何かそんな出来事もあったようでございます。室蘭生まれの室蘭育ちが、別な土地から来たお相手を室蘭市民にして頂い

てありがとうございます。
ました。(笑い)

それでは、次に、「ほこいふじエンターテイメント会員」の三宅さんをお願いします。



三宅さん 「ほこいふじエンターテイメント」の三宅美与と申します、よろしくお願いします。

今、栗山さんのお話では、室蘭生まれで室蘭育ちですということでお話があったのですが、私は全く逆で、室蘭に来た自体が1年半ぐらい前なのですね。去年の4月で、主人の転勤で、室蘭にやってきましたので、室蘭自体のことを詳しいかということ、本当に半ば、観光客のように、見るもの、聞くものがすべて新鮮なことで、感心するばかりの毎日を送っております。

港ということでは、私は広島生まれなので、特に港町というわけでもなく、転々としてきた転勤先も港町ではないところを経て来ましたので、本当に室蘭は、また普通の港町とも違って、神戸とも違って、片方の海面だけに接している港というのではなくて、本当に珍しく海面に囲まれた港町ということ、室蘭と港というのは本当に切り離せないんだなということ、この1年半感じながら活動させて頂きました。

私は、今言っていたようによそ者なのですが、縁あってせっかく来た室蘭ですので、室蘭を楽しみたい、そして、いろいろ何かできることがあればお手伝いしたいという気持ちから、ほこいふじエンターテイメントという、来年秋に室蘭にコミュニティーFMを開局しようとしている団体を、去年、ジャズクルーズに行ったときに、チラシを見かけて、やってみたいと思ったのがきっかけで、去年の秋ぐらいから「ほこいふじ」の活動に参加しております。

この1年間、「ほこいふじ」の会員としていろいろお手伝いする中で、普通に多分暮らしていたのでは見られないものも見られ、最近、白鳥大橋の主塔に

昇らせて頂いたこと等、貴重な経験をさせて頂きました。栗山さんもお話されていましたが、今日このような機会でもなければ、とても海から工場地帯を見ることなんて、多分単なる通勤族の、しかも嫁の私には多分縁のなかった話だったと思うのです。とてもいい経験をさせて頂いております。その分、恩返しができるように、できる限りのことをしたいと思いますし、また、いろいろな話を聞いて、自分の勉強にさせて頂ければと思っております。よろしく願いいたします。

立野さん ありがとうございます。御恩返しなどという素敵な言葉が飛び出して、何か室蘭に生まれ育った者にとっては、本当にうれしい言葉で、ありがとうございます。

それでは、次に、登別室蘭青年会議所、合併になったからの初代の理事長さん、ましてや女性の理事長さんということで今日はいらして頂いております菅原桂子さん。菅原さんは、港に関しては、私あまり、とおっしゃったのですけれど、ところが、室蘭追直地域マリビジョン協議会の委員長もしているということで、きょうはどうぞよろしくお願いいたします。

菅原さん 社団法人登別室蘭青年会議所の理事長をさせて頂いております菅原と申します。今、立野先生の方から初代というお話があったのですが、実は私2代目で、初代は別にいます。経緯をお話しますと、社団法人室蘭青年会議所と室蘭登別青年会議

所というのがそれぞれ長い歴史を持った団体だったのですけれども、御存じのとおり、登別市と室蘭市というのは、結構分け隔てなく行ったり来たりしているという観点と、将来の町ということを考えたときに、ここに行政の方がたくさんいらっしゃるところでなんですが、**行政合併をするべきではないか**、その話し合いをするべきではないかということで、2000年頃に私たちの方で署名活動を行いました。

そして、室蘭の議会の方では可決を頂いたのですが、登別の方では見事に否決をされて、今に至っているわけです。ただ、そこで意気消沈することなく、**まず我々が共同して一つの地域として考えていこう**じゃないかということで、昨年、**登別室蘭青年会議所**として誕生し、そして今年度、私が理事長に就任させて頂いたという経緯でございます。去年の今ごろですと、地元紙で、「女性初の理事長」とかって言われて、結構プレッシャーを感じたり、今も出たように「初代なんだね」とおっしゃる方がいらしたのですけれども、女性という部分を意識して、今までやってきたわけではないのですが、そのとき初めて女性というものも注目される存在なんだなと、ならば、その立場というか、経歴というか、そういうのを活用してどんどん出ていった方がいいのかなと思った一面でもありました。

活動内容といいますと、今申し上げたように町村合併というか、どっちかという、そういう感じの活動とか、何かイベントをやっているということもありますが、それよりあまり目に見えない市民の意識というものに訴えかけていきたいという志向が強い団体でありまして、最近、室蘭民報さんのおかげで結構記事を掲載させて頂いております「**ユナイテッドチルドレン**」という団体を、ことし1年かけて設立しようとしております。その団体というのは浜松が発祥の地なのですけれども、**中高生が自ら立ち上げた団体**でありまして、自分たちにも何かまちづくりにかかわることができるのではないかという思いと、自分たちがこれからの日本や世界を動かす人になるのだという思いを持った子供たちが集まっ



た団体であります。それを、ちょっと言葉悪いのですが、私たちみたいなもう未来が見えてしまっている人たちが町のことを考えるよりも、中高生たちが考える町ということにも着目していくべきではないかなという思いから、その団体を登別、室蘭にも立ち上げて、北海道全域に広げていこうという運動をしております。

先ほど話したようにうちはどちらかというところ、港とか、そういう一つ一つのものに特化してやっている団体ではないので、あまり港のことは分かりませんと申し上げたのですが、私も生まれも育ちも室蘭でして、室蘭を出たのは大学の4年間だけというぐらい室蘭でして、もっと言うなれば蘭東方面というあれで、育ったという関係上、あまりこちらの方に来る機会がなかったというのが正直なところです。昔は、丸井さんとかがあったときには結構来ていたような記憶があるのですが、私の記憶でいきますと、港イコール新日鐵とか、やっぱりそういう工業地帯というのが非常にイメージが強く残っております。

今、立野先生から、本当は内緒にしていたかたなのですが、マリナビジョンの委員長のお話があったのですが、先ほど栗山さんもおっしゃっていたように、私も何も知らなかったのですが、そこで初めて追直漁港というものにじかに触れて、逆に、この室蘭というのは宝物があるんだなということに気づかせて頂いた職務でした。

今日は山田さんもおっしゃっていたように、港と自分をこじつけることなく思ったことを話して、そしてまた、このようにふだんお会いすることないような団体の方々とお話ができるということで、違ったまちづくりということも考えていけるのかなと思って、すごく楽しみにしてきょうは何っております。

立野さん ありがとうございます。女性ネットワークの方、今の蘭東と蘭西という言葉なのですが、蘭東というのは、言ってみれば、輪西から

向こう（東）側というかな、それより西側、いわゆる室蘭のこの湾になっているところですね、そのへ先のところまでが蘭西という分け方を、昔から使われております。ですから、菅原さんは港を見ることがめったにないところで育ったというような、そういうふうに理解して頂ければいいと思います。

それでは、次に移らせて頂きます。次は、我が北海道ネットワークのメンバーであり、加えて室蘭漁業協同組合の女性部長さんとして、全道を走り回って御活躍の中越さんをお願いいたします。

中越さん 私は、室蘭漁業協同組合女性部の部長をしております中越小夜と申します。

私は、皆さんをうらやましく思います。私は宮城県の生まれで、だまされて45年前にここに嫁ぎまして、もう35年も経っております。家は漁師ですが、室蘭には第1次産業があまりいないのですね。それで私も最初から魚の方にかかわっていたわけではないのですが、平成8年に、部長になってから、全国の大会に出席して、そのときに全国から1,000名の方、第1次産業から2番次産業集まる女性の大会があったのですね。そうしたら、室蘭、中越、それから室蘭漁業と書いてあるものから、「室蘭に漁師なんていないのにね」と言われ、あそこは鉄鋼の町とか、造船の町とか、工業の町とか言われて、全然相手にされなかったのです。室蘭で、すごくおいしい魚いっぱい採れているのに、いろいろな海産物がたくさん揚がっているのに、そのことを知らないんだとそのときそう思って帰ってきました。



それから、そのときの主催者からレポートを提出するように言われ、「室蘭では魚がいっぱい採れます、採れます、採れます」といっぱい書いた記憶があります。そのときから、私は^(さかなしょく)魚食について一生懸命やろうと思いました。それで魚をこうやって食べればおいしいのよとか、そういうことを、始めてから、11年もしています。最近、魚から生まれたような顔して歩いているものですから、うちに電話が来るのです。「中越(ちゅうえつ)さん」。中越(ちゅうえつ)って今の新潟の中越(ちゅうえつ)と、同じ名字、新聞に中越と乗ると「ちゅうえつ」と呼んでくれるらしくて、それでも私にはすごくいいなって、同じ名字で助かったなって。かえってインパクト強くて覚えてもらったのだと思います。

それから、各町から料理講習の依頼があります。今とれている魚の一番いいときに教えたいものから、できたらサケやカニの時期だとか、そういう時期をねらって、そのときに要請されたところに伺っています。

最近、子供たちから、室蘭に栽培センターができたということなのか、植樹のことをよく聞かれる。わざわざ車で来て、私に説明してよと、そういうのもきのうの「ザ・シンポジウムみなと」で講師の青柳さんでしたか、講演で環境産業の果たす役割について話されたけれども、私たちは昭和62年から植樹に関わっているのですけれども、今の子供たちも「何んで海辺に木を植えるの」と興味持って真剣にきてくれることがうれしい、それも栽培センターのおかげとも思いますけれども、そういうことが、意外と植樹の方に少しはつながっていくのではないかと思います。私の後の人にも同じ活動を続けていってほしいなと思いながら、今までやってきました。どうぞよろしくをお願いします。

立野さん ありがとうございます。中越さんは本当に、追直漁港の見えるお宅、もう目の下がすぐ漁港でございまして、そこで直接に潮風に当たりながら、レシピを一生懸命考えていらっしゃるのですけ

れども、実は会に入ってもらったのも、シーガル号が室蘭に寄りましたときに、室蘭のお魚がクロゾイなものですから、クロゾイを食べて頂こうという発想から、女性部長さん、中越さんに伺ったところ、快く追直漁港の女性部の方を何人か連れてきてくださって、クロゾイをごちそうしてくれました。

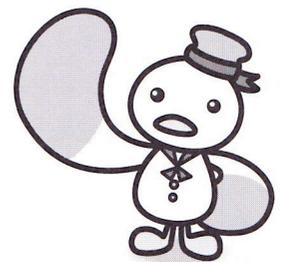
その縁でこの会に入ってもらきまして、本当に心強い会員で、ありがとうございます。

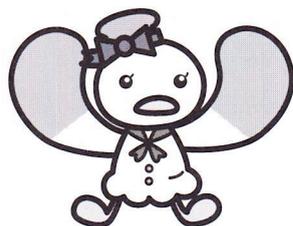
これまで、自己紹介を兼ねてみなさまの活動の様子を伺いました。

それでは、御自分の活動と何かつながっているかなと思うことで結構ですから、港から室蘭の歴史と文化的なこととまちづくりについて、その中での活動とか、思いとか、そういうことも合わせながら少しお話しください。

では、山田さんから。

山田さん 私も生まれも育ちも室蘭なのですけれども、室蘭に港があるというのも割と当たり前のこととして育ったというのが現状なのですよね。でも、それというのは、たまたま室蘭が港にあったというのが偶然のこのようで、すばらしいことなのですよ。というのは、富良野の人が港を欲しいと思ってもできないのですよね。ただ、それについて思い付いてというと、よい港を持っているのに、それを活かそうとしていないというのがやっぱり現状と思うところはあるのです。例えば、立野さんは、すばらしい音楽的な才能をお持ちですけれども、もしお仕事が土木作業員とかでしたら、その才能を活かし切れないと思うのですよね。(笑い)それと同じで、港町としての意識を高めていないと、どんなにすばらしい港を持っていても、それを活かすことができない。ただの宝の持ち腐れになってしまうと思うのですよね。今はだんだん注目されてきてはいると思うのですけれども、





まだ高めるためのレベルには達していないかなと私の目からはそういうふうに見えます。

今後のまちづくりとか、行政も市民もそうで

すけれども、室蘭は立派な港を持っている、その持っている港をもっと活かして、もっと世界に、日本とかではなくても、世界に目を向けて発信していくのが正しいかなと思うのですよね。それぐらい立派な港を持っているということは、もう分かっていることですので、あとはその港をどう活かしていくか、それをもっと考えて、行政とかに任せるとかではなくて、自分たちのまちづくりの中に入れていくとか、行政も行政で自分たちの港を活かす、売り出すために努力をいろいろしていくとか、そういう考えが大体ないのではないかなと思うのですね。済みません、生意気言っって。

立野さん 港を活かしたまちづくりということね。それに山田さんは、ハッピープロジェクトの中で、さらには、この前は旭川まで行って、「旭橋を語る会」でお話をなさったようですけれども、それはどんな話をなさったのですか。

山田さん 何の話をしたか、もう、3月だったので記憶がないのですが、そのときは、橋つながりということで、今後橋サミットとしてつなげていこうということでの第1回目の取り組みだったのですけれども、旭橋はかなり歴史のある橋で、その橋にやはり思い入れのある方というのがすごく多いのですね。室蘭の橋は、まだ日も浅いし、本当に“ひよこ”みたいなものですよ。でも、次は全道に目を向けて、いずれはどんどん広げていって、全国的にもいろいろ有名な橋あると思いますので、橋について橋自慢をしていきたいという思いから行いました。

立野さん 山田さんから、音楽家でなくて、土木作

業員になったら音楽はどうかというけれど、私、今考えてみて、土木作業員になっても声が出る限りはどこでも歌は歌いますから、そのときは好きな歌、艶歌、演歌かな、クラシックだけのイメージでやっぱり山田さんは私をとらえているんだなと思って、ありがとうございました。

今、歴史と文化という観点で、室蘭の港を世界に発信させるのは、行政に任せるのではなくて、市民もそういう意識を持たなければならないという、本当に意識の大事さをお話しして下さいました。

それでは、栗山さんの方から。

栗山さん 室蘭の歴史と文化を考えて、私はジャズクルーズの方の視点からお話しさせて頂きますと、ジャズクルーズは、年配の方もたくさんいらっしゃるのですけれど、私はジャズに詳しいわけでもないので、ただ聞くだけではなく、裏方、裏のスタッフとしてやっているのです。

ジャズクルーズを立ち上げた方々は、音楽が好きで、その中で特に、ジャズが好きで、となると、ジャズの話をしだすともうとまらないぐらい、「ジャズというのは、昔はアメリカのニューオーリンズが発祥の地で、そこも港町だったんだよ、だから室蘭はジャズが似合う町なんだよ」というようなお話を聞いて、「ああ、なるほどなー」と思います。「昔はすごかったんだよ、アーケード、今はすごく寂しいアーケード街になってしまったが、そこが昔すごかったんだよ、ジャズバーがたくさんあって、生バンドの演奏が本当に、歩いているだけで流れてくるような町だったんだから、人がすごく居て」というような、私にはちょっとお話を聞いても、何かイメージがちょっと湧かないという感じなのですが、そういう歴史があるところで、今回でジャズクルーズは6回目なのですが、年々いろいろなところから、またその世代の方々がいらっちゃって、盛り上がってきているところです。またその人たちが、またジャズを通して、もう一度あの賑わいをということで、ジャズクルーズに思い入れを持って楽しんでいるところ

です。

私もジャズと港が一体になるというところを何となく分かってきたところでもありますし、また、港が舞台だからみんな一つになれるんだなというような感覚を持っているところです。そして、昔の人が、港で楽しんでいるのが分かるのだけれど、次にこれからはどうだろうと思ったときに、若い人たちとか、子供にもたくさんそういうふうには活気づけてほしいのですけれど、ジャズフェスに対しては、今はほとんど子供の姿はなくて、大人が楽しむ場所になっていると思うので、**もっと子供に、ジャズは少し難しいかもしれないのですけれども、耳に入ってきて心地いいんだよということ**を分かってもらうため、**そういう環境づくりということも必要**と思います。

今のジャズクルーズが行われている中央埠頭倉庫では、周りに特にフェンスがあるわけではなく、子供が来るとなると、やっぱりちょっと危険という部分がある。でも、そこにフェンスをしてしまうと、だめなんだよというような話もありますが、これからの世代もというと、やっぱり、安全がすごく大事ですし、そういう面での環境整備が必要です。そして、イベントの場所もいまいち浸透していない。どこから入っていけばいいのか、いくら看板を立てても、分からない、分からないという声が毎年挙がっています。そういうところの環境整備という部分も見直す必要があるのかと思っています。

立野さん ありがとうございます。御自分の活動から、環境整備のお話までありがとうございます。栗山さんは、見えないところで舞台設営をしたり、イスを運んだり、後片づけをしたりというお仕事に徹しておられる。ジャズクルーズのときに、前夜祭というのがあるのですよね。前の日に出演者と、それから関係者が、ウェルカムという感じで、準備に追われながらも、もてなしの気持ちを表わす、本当に素晴らしいことだなと、私も6回全部に参加しているのですけれども、いつも行って聞いても、いい

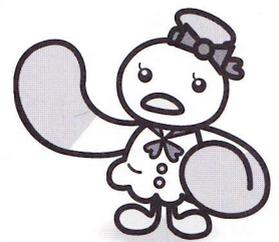
気分になって、やっぱり、栗山さんがおっしゃったように港とジャズというのはこんなに似合うんだな。羅針盤さんの構想の中に、あそこにオペラハウスをといる構想があるのですね。あの埠頭の前にね。オペラハウスもいいなと思っています。

それで今のお話から、子供さんの安全を考えながらというお話でしたけれども、**港から文化を発信する**、このイベントは本当に代表的なものだと私は思っているのですよね。これがノックスビル（アメリカ テネシー州）と室蘭市が姉妹提携して、交流のため、そのノックスビルから必ず毎回何人かのジャズマンが来ます。ノックスビルは大変にジャズが盛んなところで、室蘭の鶴ヶ崎中学校が少子化の影響で子供が少なくなり、その少ない中で何ができるかといったときに、プラスバンドではなくて、ジャズだったらできるなということで、ジャズバンドを組みました。去年、そのジャズバンドがノックスビルまで行きました。ことしは、室蘭のジャズフェスティバルに、イタンキの工場の屋上で練習している市民バンドというのが出ました。まさに文化をあそこから発信しているなということを私は本当にうれしい思いでいます。

それでは、次に移らせて頂きます。

このジャズフェテバルのとき、「ぼこいふじ」の皆さんが、放送をしてくれたり、裏方の作業もしてくださっている三宅さん、お願いいたします。

三宅さん 今お話でもありましたとおり、室蘭もお祭りとかイベントとかいろいろあります、そういったときにお手伝いさせて頂いています。来年のコミュニティFMの開局を目指して、今、皆さんにその活動を知ってもらうための場として、出て行って活動させて頂いています。もう一つやっていることは、インターネットラジオ、インターネットで放送することもやっています。その中で、「ベイ



サイドラジオ」、まさに海のそばのラジオという番組もありまして、私も手伝わせてもらったりしています。

今、ここに港のガイドブックがありますが、室蘭再発見の旅ということで、古い遺跡を回ったりするような番組もつくったりしました。ふだんは車で通り過ぎてしまったら見落としてしまうようなところで古いい建物があるんです。そういうものを持って歩いてみると、本当にいろいろな歴史が眠っているなということがよく分かります。

あとは長崎屋さんの中で、「サンバードラジオ」という、その建物内だけで流す放送であれば、認可は必要としない放送をミニFMという形で実験的に放送したりしています。前に室蘭港湾事務所の繁本所長さんにも出て頂いて、いろいろ話をして頂いたりしております。先ほど山田さんから世界に発信ということを言われていたのですが、本当にFMラジオ局になると、室蘭の人は車の中でラジオが聞けるようになるのですが、その一方で、世界に発信という意味では、今のインターネットのラジオもやって、コミュニティFM設立後も二本立てでやっていこうということを言っております。インターネットを通じれば世界の人に、地球の室蘭の裏側の人でも聞いて頂ける、ネットの環境さえあれば聞いて頂けるということで、そういったことにも役立っているのではないかと考えております。

立野さん ありがとうございます。三宅さんには、今、室蘭に市民活動センターというのが、やっと港湾部の1階に出来ました。そこにいろいろなボランティアのグループが毎回集まりまして、今も非常に



盛況、盛況というのか、人が行き交っております。そこで、机に座っていらっしゃる三宅さんを見ると、何かほっとさせて頂いております。本当にありがとうございます。

す。

それでは、次に、菅原さんお願いします。

菅原さん 今、ジャズクルーズのお話が出たので、私もジャズクルーズのお話から、うちの団体も当初から協賛という形で参加させて頂いております。そしてまた、前夜祭とか、設営や後片づけにも、任意なのですけれども、一度撤収のお手伝いさせて頂きました。そのときに、トラウマ的に非常に大変だったので、今度は普通のリスナーとして行ってみたいなと思っております。

ただ、今の話を聞いて、文化というのは、積み重なって出来たものが文化というものもあると思うのですが、逆に、つくり上げるものも文化なんだなという思いで、今ジャズクルーズのお話を聞いておりました。

私たちは、団体と絡めてというのがどうしても念頭にあるのでお話ししますが、今、山田さんの方から世界にというお話があつて、私もそうだなと思っているのです。というのは、うちの団体の方では、先ほど町村合併の話もしましたが、西胆振というものを非常に視野に入れておりました。それは登別、室蘭、伊達という構想を見ております。なぜかという、**第1次から第3次産業まですべてそろっている地域**ということを見ると、非常にすばらしい町になるのではないかと、西胆振構想というものを持っているのですけれども。それを私たちはちょっとまだ世界まで行っていなくて、アジアの西胆振ということで発信していければなという思いがありました。

というのも、それはやはり室蘭にあれだけのすばらしい港があるということに着目をしました。あちらの中国とかタイとか、あちらの方と室蘭の港というのをつないで、まず、こちらを活性化させてはどうかというような話もその中には入っております。ただ、自分自身のこともそうなのですが、今まで有って当たり前、先ほど山田さんもおっしゃっていたのですが、有って当たり前という意識が非常

に強くて、今こういう形でいろいろなところを見させて頂いて、改めて気づくということが結構あります。

市民の中には、多分これだけの財産を持っている町だということがわかっていない人ほとんど、ほぼ9割方そうなのではないかな。ですから、どうやったら室蘭の港とか、室蘭市のことを広めていけるのかなということも思いますし、たまたま自分が追直漁港の方と深くかかわりを持ったので、最近はこちらのメンバーに「口を開けば追直漁港のことしか言わない」と言われるぐらい自分で言って歩いているのです。

去年は登別の牛乳のことしか言っていなかったのですけれど。やっぱりここにこうやって機会があって集まって、いろいろな勉強をしている人たちというのはほかにもたくさん居ると思うので、その人たちが何か結集までも行かなくても、その知識をいろいろな自分の家族だとか友達に広めて歩くことというのが非常に大切なのかなと思って、今のお話を聞いていました。

立野さん ありがとうございます。室蘭というのはすごいなって、やっぱり世界に羽ばたけという言葉が3人からも若手から出たから、もう非常に何か夢と希望にあふれる未来が室蘭には有るのだなと思います。何か本当にうれしくなりました。

それでは、中越さん、よろしくお願ひします。

中越さん 私は世界にむかって何も言えないのです



けれど(笑い)、前に私もマリンビジョンの函館会議に出させて頂いたとき、追直漁港のことを都会の港、都会の港とよく言われました。だから、室蘭にある港と覚えて頂きました。追直漁港では、今、漁業組合の建て替えも始まっていて、かなり港も変わりました。そして、資源の保護、そういう環境面ではいつも私の方がやっているので、以前までの追直ではない漁港になると思います。漁業組合の建物が出来たときには、すばらしい場所になるとは思います、ぜひ楽しみに。岬のふもとにある港に足を運んで頂ければうれしく思います。

それから、この間、サファイアプリンセスが室蘭港に入ったとき、**高校生のボランティアの働き**がすごくよく、その前の港まつりでも、そのときは私は孫を連れていきましたが、そのときにも結構お孫さんたちを連れて来た人たちも見えていました。だから、子供たちが少しずつ港に足を運んでいるのではないかと思います。やっぱり目で見て、関心を持っていかないことには、幾ら港、港とか口で言っても分からない、家族の人とかと、車でさっと見るだけでも意識が変わるのではないかと思います。ちょっと見て感じて、そして参加するというような、そういうのが港の活性化に少しはつながらないかと思います。

立野さん ありがとうございます。それでは皆さん、お茶を頂きながら、最後のところに移らせて頂きます、今度はフリートーキングで、何か室蘭港に対する提言など、先ほど栗山さんの方から環境整備ということで、提案に近い御意見がありました。子供にも安心して来てもらえる港という提案がありましたので、それも一つ大事なことだとさっき思わせて頂いた、そんな意味合いでフリートーキングというか、何か室蘭港を今朝ほど外から見て、例えば色彩、清水港なんかは富士山をバックにしてカラーコーディネートを、東海大学の先生がなさったと、そんな話も聞いたのですけれども、後ろにいらっしゃる女性ネットワークの佐藤さんからは、「室蘭は

鉄の町なんだから、あの錆がいいんだ」(笑い)、船に乗りながらそんな一言も頂きました。室蘭に住んでいる皆さんに何か提言や思い、こうあったらいいな、こういうことをしたいなということがありましたら、ぎっくばらんなどでお話をさせて頂きたいと思うのですけれども、どなたからでも。

中越さん 私は、今までは漁港の周りの土地に植樹を行ってきましたが、それが土地が狭いというよりも土地が高く、私どもの会でもちょっと追いつかないぐらい高いものですから、ことしから、ユースホテルの下の潮見公園の隣に植樹を始めました。その展望としては、ビオトープを考えて、近くに学校もあるし、イタンキ浜に近いので、そして、工業団地もあり、産業廃棄物処理場という話もあり、あそこを選ばせて頂きました。この間も見に行ったのですが、ことし植えたものもそこそこ芽吹いていました。

ちょっと港の話からずれましたけれども、環境のことを思いましたので。

立野さん ありがとうございます。今、植樹ということで、場所をイタンキ浜に決められたということで、その応援をこれからも皆さん基本的に、あそこは海水浴場、室蘭でただ1カ所の海水浴場でございまして、その海水浴場のそばに工業団地、トランス団地があるところですが、夜になると若干バイクやら、ちょっといろいろな問題がありますけれども、室蘭ではあそこの位置づけというのは、これから大事なこともかもしれませんね。

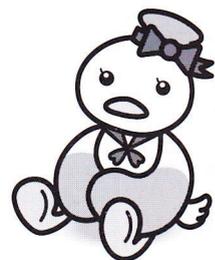
そのほかにありませんか。

菅原さん 私も実は、新日鐵の錆ってすごくいいと思うのです。もし白鳥大橋だとしたら、景観を壊されるから塗り直せとか、いろいろな意見で出ているかと思うのですが、逆にあの錆があって、白鳥大橋があって、埠頭につながって行って、すごく哀愁漂った町だなと思ったら(笑い)。見方によっては、いい

かなと思っているのです。だから、港とちょっと離れてしまうのですが、新しくつくることばかりではなく、あるものをどうやって活かしていくかということも考えていかなければならないと思うし、港ばかりではなくて、室蘭って一体どっちの方向へ進むんだらうねということ視野に入れて考えないと、例えば行政にお願いして作ってもらいました、作ったけれども、作ったきり、とかというものにもなりかねない。

例えば防災フロートだって、別に悪口ではないのですけれども、出来たは出来た、だけれど、では、それをどうやって活用していこうかという話も別に市民の中で論議されるわけでもなく、それに基づいて海上自衛隊を誘致しようという形も何か民報にあったのですけれども、それも一体どうなったのかなとか、その誘致しなければならぬということではなく、その終わりが見えない論議ばかりをされているような気がするので、あるものを活かしながら、未来にどんな町を残していくんだらうねということを考えていくのが自分たちの責任という部分があるのかなと。

要望としては、時間帯にもよるのでしょうけれども、前に大谷高校の生徒が自分たちでワークショップをやったのですね、まちづくりの。自発的にやったのです。確かに高校生の考えることですから、非常に近未来的なこともあったのですけれども、でも、それだけ真剣に考えているということを見ると、やっぱりこういう座談会にも、許されるのであれば高校生とか中学生も入れて、室蘭という街を教えるあげるとすることも必要なかと思っています。



立野さん ありがとうございます。そうですね、やはり次の世代に受け継いでいくためには、そういう人たちにもかかわってもらう方法を考えた方がいいのではないかという御提案、本当にありがとうございます。

それから、防災フロートは、活用のことを議会でもしょっちゅう出ている話なのですが、ただ、それで、さっき船に乗っているときに、繁本所長から、「防災の日に防災フロートを動かしたらいいのに、その日には何もなかったね」と言われたのですよね。何か市民のイベントに使えないかと言う話がありますが、そういうと市民の意識に、防災という文字がどこかに行ってしまうかもしれないなとも思いました。ですから、**防災の日に防災フロートを活用して**、市民にこういうことに本当はフロートは活用されるんだよということも大事なことだと思いました。本当にありがとうございました。

それから、高校生もまちづくりに入って頂くということは、本当に大事なことで、今、小学生でも総合学習で港に行ったりとか、いろいろ町の人が学校に行ったり、総合学習の中で町のことを知ってもらおうとか、来てもらうとか、出向いていくことが今盛んに行われているのです。室蘭市内で。ですから、そういう総合学習の中でいい相乗効果が出ればいいなと思いました。

いかがですか、栗山さんは、何か提案ないですか。もう少しジャズクルーズのときトイレがもうちょっと多かったらいいのとか、ごみはどうしたらいいのとかね。

栗山さん ことしトイレが、ちょうど中央埠頭のところの前にジャズクルーズ開催の7日前に出来ました。いろいろな人が、ジャズクルーズまでに間に合うかと心配しながら、準備をしているときに完成した。完成したトイレを見て、出来るまでは、あそこに来ると港が見えなくなるんじゃないかと会議の中でも話し合われたのですが、出来てみると、いいね、よかったねという話で、やっぱり仮設トイ

レは用意しているのですけれど、障害の方が使うということもありますし、やはり良かったなという話も出ました。トイレも出来て、今はいろいろなイベントが行われますので、**環境整備の部分では、一つずつ進んでいる**と思っています。港の公園も、以前よりもきれいになってきているのですけれども、もっと人々がくつろげる、集える場所になっていくのを期待している面もあります。私も室蘭港というと、新日鐵、工業港というイメージが強く、茶色いというイメージがあるのですけれども、でも、それがあったからこそ室蘭が栄えたという面もあったと思うので、それも活かして、やっぱり変化しつつ、こういう会がある中で意見交換しながら、さらにもっと良くしたいという思いでとても期待しています。

立野さん ありがとうございます。栗山さんから今、トイレの話が出ましたけれど、私、イベントやった後、翌日朝早くイベント会場にごみ拾いに行くことにしているのです。実は、ジャズクルーズのときも、翌日5時に行って、だけれど、ごみが落ちていなかった。もう何個しか拾えなかったですね。港まつりのときも拾いに行きます。何んだか姑しゅうと根性のようなので、そう思われると困るのですけれども、やっぱり町のことを考えたときに、みんなの意識がどうかということ、私必ず朝5時に起きて行くのですよ。港まつり終わっても、そして、ジャズクルーズのときは見事でした。ですから、市民意識としては、本当にうれしい思いをしました。

それでは、今、山田さん何か提案ないですか。

山田さん 私は、皆さんみたいに自分の団体に合った形の提案とかできればいいのですけれども、橋を渡って二人を結びつけるという仕事なものですから、それと港を結びつけると非常に難しいのですよね。ただ、先日、先ほどからも話に出ていますけれども、「豪華客船・サファイアプリンセス」が入ったときに、NPO 法人羅針盤の方で1日お手伝いさせ

て頂いていましたので、そこの点絡めて話ししていきたいと思います。

あのときは、たった1日、数時間なのですけれども、世界各国の方が室蘭に降りられて、たくさんの方に室蘭を触れて頂いたのですよね。そのときに歓迎セレモニーとして私も振り袖で草履が壊れるまで、一日中歩き続けたり、あとは、甲冑かっちゅうを借りまして、それを着た侍と4人でパフォーマンスをして、どこかのお笑い団体だと思われたのですけれども、たくさんの方々と触れ合いました。

やはり国際都市として室蘭がだんだん充実してきたのではないかと思うところがありますね。港があるということは、海に触れているわけですよね。海というのは、世界各国の島々とつながっているわけですね。港を持っているということは、それだけで世界の窓口を持っていると考えてもいいのではないかと思うのです。それぐらいやっぱり港を持っているということは、大きなチャンスも持っていることだと思えるのです。

もっと誇りを持って、自分の港は世界に羽ばたけるんだというぐらい胸張っていいのではないかと思います。この室蘭も国際都市として、輝いていけたら一番いいのではないかと考えております。

立野さん ありがとうございます。山田さんは、橋を渡ることによって結ばれるといううわさを札幌発信で聞いて、それを受けて立ってやっているわけですが、例えば、行政に要望などあまり考えられていないとは思いますが、例えば、こういう点で応援してもらいたいとか、将来こういう企画があるのだけれど、こういうものがあつたらいいとか、なにかありますか。

実はNHKの室蘭放送局が13年前に、「市民に開かれたNHK」ということで全国で初めて市民にオープンされたのです。そのときのクマさんのコメントが今もありますけれども、華々しくオープンをやりました。そのときに、いろいろなボランティアがアイデアを発信していく中で、活性化のた

めに、港の見えるNHKのこの場所で、喫茶店をボランティアで出来ないかということを経理さんに相談しまして、13年間、あそこの場所で喫茶店をやって、私がお代表なのですけれども、「ブリッランテ」って、輝くという音楽用語があるのです。みんなで室蘭でわずかな輝きだけでも、港を見ながらここでボランティアをしようよというのが13年間続いております。そのときに、市の港湾部から土地を借りて、みんながホワイトハウス、真っ白い建物か真っ青な建物を建てて、「そこで喫茶店かお土産売り場をやるかな？」ってみんなに声をかけたのです。それなりの人が集まっている会なものですから、それぞれが出資してそこに建てようと言ったのですけれども、「いや、先生、またそういう難題言う」って、市に一遍で蹴られたのです。

今考えると、13年前にもしその発想が実現していたら、あそこに、「やさしい村」のところに夢のある女性の何か、喫茶店なり売店なりができたんだなって、今でもそれが残念なのですけれども。どうぞ若い人はそういう発想で、あそこにこういうものがあつたら若い人が集まるとか、あの「やさしい村」、村がありますよね、今ね。だから、そういうイメージでいくと、山田さんなんか、橋を渡ったロマンチックなものを求める何か、若者の視点がないのかと思うのですけれども、いや、私はもう、山田さんが孫に近い年だから、いや、孫に近いってちょっと……、だから何かそういう希望というか、こういうものがあつたら、あの橋でもっとできるのではないかと。例えば、あの橋が完成したとき、市民が「白鳥大橋



賛歌」というのを作ったのです。600万円もかけて。知っていらっしゃるでしょうか。「白鳥大橋賛歌」という歌、知らないでしょう。そのときに私が独唱したのですよ。

オブザーバーから そうしたら、御披露頂いた方が分かる。(拍手)

立野さん 本当は、さっき、世界につながるという、海でつながっているからという、やっぱり「海は広いな大きいな、行ってみたいよその国」、そんなのがちょっと浮かんできたのですけれど、この歌は市民から公募しました。そして、大中恩さんといって、「サッチャんはね」とか、有名な童謡や、それから合唱曲をつくっている、今も、お元気なのです。その大中恩先生に作曲を依頼して、何回か東京に行って、その歌をつくりました。それで私たちは年じゅう歌って、市議員も年末、歳末助け合いには全員に合唱させるのです。ここにいらっしゃる方が知らないということは、それだけ流れていないということになるのですよね。

では、歌います。(拍手)

「波 波 朝日にきらきら 空 今 心にきらきら
室蘭岳よ噴火湾 そこから輝くあしたが見えますか
かもめが飛んでフェリーが走る 潮風受けて走る
海にかかる 海にかかる 虹のような白鳥大橋
朝日にきらきら あしたへきらきら」という歌なのです。(拍手)

こういう明るい歌があるのです。測量山や、それから2番は噴火湾、室蘭岳よ噴火湾という歌で、いい歌でしょう。今度、「ほこいふじ」でも流してください。たくさん私たちは、地球岬も歌っているし、今の白鳥大橋賛歌も歌っています。だけれども、やっぱりこれだけ浸透していないということは、やっぱりまだまだ自分たちの歌い方が足りないという反省をいたしました。

山田さんも知らないというの、珍しいよね。市長も歌えるよ、市長も歌いますよこれは。

オブザーバー 白鳥大橋の歌だけでなく、室蘭では大黒恵比寿だいこくえびすの何とか……。

立野さん あれは室蘭音頭って、「はあー」というのがあるのです。「のびて室蘭 のびて室蘭の……世界の波止場」というのは室蘭音頭であるのですよ。「出船入り船そで高鳴る」、それは港まつりに踊るの。そういうやっぱり歌がストレートに入ってきますよね。だから、私なんか室蘭音頭のおばさんといって、入江の野外ステージで200人ぐらいの吹奏楽をバックにして、毎年野外コンサートで、室蘭音頭のおばさんやるのですよ。そうすると、もう気分がいいです。子供たちも、こういう歌があるんだということで、だからやっぱり音楽というのは、やっぱりいろいろみんなを元気にするし、笑顔も浮かんでくるし、やっぱりいいなと思っております。何かちょっと私の歌で、余計な声を聞いて頂きました。

それでは、皆さんいろいろ、皆さんからの提案ということでいろいろ頂きましたけれども、皆さんの思いが室蘭に寄せる思いで、皆さんも室蘭港のことに関してまだまだ知りたい、それから、ここへ行ってみたい、いろいろな思いがあると思うのですけれど、若手さんばかりですから、年には関係ないのですけれども、私も中越さんも、中は燃えている。気持ちは火だるまのようになって、室蘭を何とかしよう、何とか室蘭を港から元気を発信しようという気持ちは皆さんに負けぬぐらい思っておりますので、これを機会に室蘭港にいろいろ目を向けて頂いて、きょうは海からいろいろな岸壁の説明をして頂きましたけれども、これからまた機会があれば、ぜひこの女性ネットワークの中で、またいろいろ情報発信をしたいと思っておりますので、ぜひとも御協力をして頂ければありがたいと思っております。

これでまとめさせて頂いてよろしいでしょうか。

事務局 どうもありがとうございました。(拍手)

地域懇談会について

みなと座談会出席者の他女性ネットワーク会員、室蘭市、開発局の方々

- ・佐藤 尚子：函館すぶれっと代表
- ・菅原千鶴子：「蒼い海」事務局（留萌市）
- ・竹内 珠巳：日専連紋別専務理事
- ・大西 育子：女性街づくり苫小牧代表
- ・古屋 温美：(有)マリンプランニング代表
- ・奈良岡脩生：室蘭市港湾部長
- ・神野 雅明：室蘭市港湾部建設課長

- ・桑島 隆一：室蘭開発建設部次長
 - ・繁本 護：室蘭開発建設部室蘭港湾事務所長
 - ・中島 靖：開発局港湾空港部企画官
 - ・光成 真也：開発局港湾空港部企画担当係長
- 司 会
大野 隆由：NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 理事

司会 これから地域懇談会を開催させていただきます。
(出席者の紹介を行う)

はじめに、女性ネットワークの方々から、午前中の座談会を聞いて感じたことなど、自分たちの地域のことも含めてご意見を伺います。

大西さん 立野さんとはいろいろ港に関わってから何かとご縁がありました。今日の座談会を聞いて、感じたことは、立野さんがリーダーとなってコーディネートしたので、若い人が多いということと、それから室蘭には隙（すきま）があるなとすごく感じました。パワーとエネルギーをすごく感じました。それと皆さんそれぞれ、口幅くちはばった言い方なのですけれども、しっかりしていらっしゃる。

本当に音楽というのは人の気持ちを和ませるということ感激をいたしました。

それから、地域のことを言うと、苫小牧と室蘭は、男性の社会ではいろいろな対立があるでしょうが、女性では、手を取り合って、海は広いな、コンタクトしようよと。私達はお金をかけないで、自分の体で、港と関わられることを、歩くということで考案しました。お話の中で、毎年我々も地域に少しは貢献できているとも思うのですけれども、室蘭の意識の高さにはちょっと驚いた、同時に、皆さんも、自分もそうですけど、すごく自分の地域をちょっと意識し

過ぎるところもある。室蘭と登別というように、もうちょっと行くと苫小牧がある、もうちょっと行くと、十勝がある、釧路もあるよと、ぐるっといくと函館まで回って北海道全部の重要港湾、特定重要港湾含めて12港もあるということもまず知りながら、先ほど山田さん言われたように、世界を目指すということも、まず地に足のついた自分の地元をきちっと固めて、次に我々は同じ北海道に居住していますので、北海道全体ということで連携する。その土地土地の港湾の歴史とか文化とかありますから、やっぱり自分のところの持っている歴史、文化とか、例えば中越さん言われた、地域文化も含めて、自分のところの特徴を出していきながら、行政とか、大学とか学校も全部いれて、産・学・官と、自分たちの小さな活動とコラボレーションしていくということも大事なのかと思う。自分の力って本当に小さい、





しかし、どの町にも絶対どこにも負けないものが必ずあると思うのですね。紋別のカニ、苫小牧のホッキ、函館はイカと、食べ物だけ取ってもあるわけで。だから、あまり堅苦しく交流だ

の何だのとこだわらないで、入っていきやすいところから、自分の地域に足をつけて、みんなで連携というか、輪をつくって手をつないでいけたら、女性の視点でいろいろなものをもっともっと語って、行政にいい意味で提言をして、地域をよくしていけるのかと思っています。

きょうの座談会を聞いて、女性ネットワークが力強い北海道のリーダーになっていけるような意を強くいたしました。きょう本当に参加できてよかったと思います。ありがとうございます。

司会 紋別から来られた竹内さん、お話し下さい。

竹内さん 先ほど山田さんがおっしゃったように、意識を高めることが大事であること、これは女性ネットワークの中でも、いつもその話は出てくるのですが、改めて皆さん若い方のお話聞きまして、私も若いですがね、でも、本当に新鮮でした。意識を高めなければいけないと皆さんが今、思われていることは、本当にいいことだと思います。

私も室蘭に対しては、認識がちょっと違っていた部分がたくさんありました。室蘭では「ホエールウォッチング」ができるというのも、これがやっぱりすごい資源だと思います。自分たちが意識していないと、発信が出来ると思います、お話を聞いていまして、大変参考になりました。

私たちは、「みなとまちづくり女性ネットワーク」というのを長い間やっていますけれど、その中では、やらなければならないこと、やれることを、一つ一つみんなで頑張っていきたいと思いますというのを私たち持っているのですね。一挙にいろいろなことを望む

のではなくて、もちろん地域を高めることも必要ですし、皆さんと交流を図ることもそうです。この交流を図ることが、一番やっぱり自分たちの忘れていることを気付かせてくれるいい場だと私は思っています。ですから、きょうまた皆さんとお会いできて、新しい仲間が増えたこと、とてもうれしく思います。ありがとうございました。

司会 それでは、函館の佐藤さん、よろしくお願います。

佐藤さん すごく立派なことは言えないのですが、とにかくきのう来まして、リサイクルの環境シンポジウム聞いて、男の人達がものづくりや、リサイクルに取り組んでいるということに勉強したとき、ああ、すごいなと。でも、室蘭というのはそういうイメージができていまして、逆に室蘭にこんなに若くて一生懸命やっている方々がいっぱいいるのだなと思ったら、おばさんも、まだ若いと思ったのだけれど、ちょっと函館へ帰ったら、若い方を引き連れて教えてもらおうという気持ちになれたのです。本当にすごい感性を持ってお話ししているなと思って、今回聞かせてもらって、本当にいい勉強させてもらいました。

話の中で、すごくいいなと思ったのは、**埠頭の名前と場所がよく分からないと言われたこと**。函館もそうなのです。どこの埠頭と言われても、どうやって行くか、私が全部地図をつくって、みんなにファクス送ってあげなければならない程。そこを何か女性の視点で、分かりやすくするとか、名前も、西埠頭とか、中央埠頭とか、言われても分からないから、もう少し分かりやすく、皆さんが行きやすいようなマップづくりができたらいいなと今感じた。

また、菅原（佳子）さんのお話して、伊達と登別と室蘭のつながり、お客様を出迎える時、ここで言えば、室蘭にフェリーだとかでいろいろな方が来られる玄関口があって、そこでちょっと疲れたら休んで、室蘭市内見て頂いて、食としては伊達だとか、

そちらの方の食材で、中越さんが言う料理でもてなして、そして夜寝るときは登別へと。三つのまちが繋がったら素敵な地域になるなと思って聞かせてもらいました。

あと**音楽の話**を、飛ぶのですけれども、どうしてもしゃべりたいことなのですね。音楽のことなのですけれども、函館にも函館賛歌ってあるのですけれども、ごみの収集日には函館賛歌が流れるのですよね。だから、ちょっとそれ、もしかして室蘭さんやっているなと思ったので、燃えるごみと燃えないごみとか、それから資源ごみのときに、ここのいい歌を流したら、主人や子供が聞いたら、燃えるごみだとかそういうので、動くからというのがあって、(笑い)。ちょっといいでしょう。

きょう、船に乗って、説明してもらいました、私、港で説明を4回目か5回目ぐらい聞いて初めてパスという意味が分かったのですけれども、きょう若い方に聞いたら、「海から見ると素敵ですね」という。函館でもやっぱり開発さんの船に何度か乗せて頂いたとき、堤防の話とか、-14mだか-12mとかと言われても、みんなそういう話聞いていないです。「すごくよかった」「外から見られて、海から見た函館見られてよかったな」って言って帰るのですよね。その感動が、もう一度また乗りたいと。自分たちが住んでいる町を海から見たという、その姿が印象づけられると、自分たちの子供にもそれを伝えて、また海の方から見てみたいと。それに日本は海に囲まれているから、海からの恩恵がたくさんあるのに、それを忘れていたなと思ったのです。室蘭は新日鉄があるから、どうしても鉄の町とってしまうでしょう。屋根を見て、室蘭に来た途端に、わあ、すごい屋根だなと。いままで、室蘭は鉄だ、鉄だと思っていたのに、今日は何かそれは少し違うんだなと感じました。食もあって、景色がよくて、やわらかい女性のイメージがあってと。ちょっと違うなと思った。きょうの話聞いていたら、港町づくりに燃えているとお二人の方が話しするから、鉄の女だなと。(笑い)すごいと、これをちょっともらって、私も鉄の女に

変わろうと思って。(笑い)

もういっぱいしゃべりましたけれど、あともう一つ思ったこと、パンフレットに字の読めないのがあるのです。ひらがな付けてほしい字があったので、できたら子供にも見せても楽しいなとちょっと感じた。いや、今ちょっと見て思ったのです。あとは植樹のことも書いているし、トイレのことも皆さん女性だから分かる。男の人たちは工場の方を見ているでしょうが、女性の観点は一番やっぱり食べること、休むことと楽しむことだと思うので、そこでまた私たちも帰ったらやりたいなと思います。

司会 どうもありがとうございました。菅原さんよろしくをお願いします。

菅原(千)さん 留萌から室蘭、時間にしますと、朝8時に出てここに1時ちょっと前には着くのですから、随分距離が短くなったという感じがします。JRを使って。ですから、室蘭といっても、決して遠い町ではなくなってしまった。そういう点でいうと、北海道が小さくなっているということで、どこからでも来てもらいやすい場所にまず室蘭はあるというふうにお考えになるといいと思いました。

それから、鉄鋼の町というイメージが先行し過ぎていて、私も小さいころはじめて室蘭に来たときに、溶鉱炉の赤い炎が見えて、その印象がすごく強かったのですが、今回と、前回、室蘭に来たときは、その溶鉱炉の工場群に今度は夜ライトを点滅させて、非常にきれいな**夜景を楽しませる街に変身している**



と思いました。季節によっては本当に幻想的で、多分デートには最適な、ハッピープロジェクトはまさしく当たっていると思いました。それぐらい感動いたしました。

それと、若い人たちがこのように活動しているということは、若い人の能力だけではなくて、中高年の人たちが、多分、若い人の活動を阻止しないよい関係が街にできているのだなと思いました。たいていの場合、若い人が何かを考えて始めると、中高年の人がそんなものうまくいくとか、ああだ、こうだと言って止める世代があって、ジェネレーションギャップというのがすごく感じるものがあって、それが若い人のまちづくりの参加意欲を減退させるのですけれど、この町はそういう部分では、すごくいい大人がたくさん居るのだなと感じさせられました。できれば、自分の町に帰って、私がジェネレーションギャップのその阻止する側に回っていない人間でありたいなと思いながら参加させて頂きました。

司会 どうもありがとうございます。あと古屋さん、何か一言ありますか。

古屋さん 私、いつも事務局なので、こういう発言させて頂く機会ってほとんどないのです。どうもありがとうございます。

私は、会社が札幌なので、別に海があるわけでもなくて、皆さんと同じ話にはできないのですけれども、でも、今回この室蘭に来て思ったことを一応、簡単にですけれど、話をさせて頂きたいと思います。

きょう、座談会で皆さんが、ジャズフェスティバルとか、港のイベントだとか、港からの情報発信とか、いろいろなところで御活躍されているのですけれども、そういう港が絡んだイベントなんかができるというのは、やっぱり港が生き活きしているからだと思うのですよね。例えば、港に船も行き交っていないで、クレーンとかたくさんあっても何も動いていない、そういうところだったら、特に何をやっ

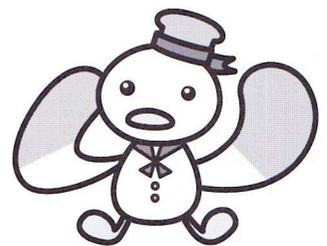
たとしても、何か意気消沈してしまうような、そういうものになってしまうと思うのですよ。

室蘭港は、世界的にも大きな企業と地場産業もしっかり根付いて、そういう地域で、高い実力とか経済力で港をずっと守り続けてきたものと思う。港では船も行き交っているし、活用されている港だからこそ、イベントだとか、そういうものもやっていけるのかなと一つ思いました。だから、港を利用するとか、活性化するというときも、その背後には、皆さんが住んでおられる地域環境があったり、生活の中に何か際立っているものがあるのかなと思いました。

けさ立野さんが、私たちが泊まっているホテルから港湾事務所まで車で連れて行ってくださった。そのときに山の方を通っていきました。前から室蘭はすごくきれいだというのを聞いてはいたのですけれども、改めて、高いところから観て、本当にすばらしい景色だと思いました。きょうの港から来た道ではないけれども、その反対側が追直の方ですよね。あちらの方はもう断崖になっていたりとか、それまたすばらしい景色があって、そういうのも是非観たい。あまり室蘭って観光とかのイメージでないのだけれども、でも、こういうすばらしい景観、そういうものをこれからは、外にも向けて発信してもらったらいいのかなと。そうすると、室蘭のお魚もたくさん食べてもらったりできますし、商業も活性化していくのかと。私も日頃、漁業に関連する仕事をやっているんで、ついつい漁村とか、魚の消費とか、そういうことに力が入ってしまうので、そう思いました。

司会 どうもありがとうございます。

それでは、ちょっと今まで女性からの話ばかりだったので、室蘭に来てまだ新鮮な感じをずっと持っておられる繁本所長さん。きょうの話と、それから自分



が日ごろ、この室蘭港についていろいろ思っていることがありましたら、よろしく。

繁本所長 きょうの懇談会の話の中でも、室蘭市の人って、街の中にいいものがあることを意外と知らない。宝物を探そう、ずっとそれを大事にしていく。きょう私、船で海側から町を皆さんにごらん頂いて、話したのですけれど、よく考えると、**室蘭港の海、すごくきれいです。**僕は環境省にいたことがあって、閉鎖性の閉じた湾で、流れてくる汚いものをいかに削減するかと規制をかけました。室蘭にこれだけ重工長大な産業がある海なのに、ここの海はきれいじゃないか。きれいな海ということも、地元の人がこの町を愛する要素の一つにしてもらってもいいのではないかと。単に水質がきれいというものもあるし、多分、水の中にはいっぱいいろいろな生物が生きている。知れば知るほどおもしろいネタがいっぱいある。そういうのを掘り起こして、**海から学べるものをいっぱい引っ張り出してみれば、宝がいっぱい落ちている。**一方、外側に出てみれば、それこそ景色が、空から海の下まで全部すばらしく美しいものに会える。

それと、きょう、「サファイアプリンセス」の話もありましたが、残念ながら、白鳥大橋をくぐれなかったので、サファイアプリンセスは止むを得ず、**崎守**の岸壁に係留させました。北海道初の豪華客船の入港が最近減っているようですが、そういったことで、前半の話は地元の人が海にというか、港に関心をもっともつことと、後半の埠頭だとかフェリーターミナルの話は、室蘭と、他の都市、あるいは世界と交流することに対していかに盛り上げるための方策を考えるか、この二つが大事なことかと思いました。

司会 ありがとうございます。奈良岡部長さん、きょうの座談会の感じと、それからいろいろ指摘された、懸案といいますかその点について、市としてはどう考えているのか、よろしく願いいたします。

奈良岡部長 今、繁本所長が言われたことに関連しまして、**室蘭港の水質が非常にいい**ということでございます。これは年2回、室蘭港内の水質調査をしております、汚染のないように気をつけておりますし、特定重要港湾の中に、実は中越さんの方は外海に面したところですが、この室蘭港の中にも2カ所漁港があります。祝津地区、風車のあるところに1カ所、それから反対側の方に1カ所。ここでホタテの養殖だとか、そういうのをやっております、稚貝の出荷は北海道で一番多いのが室蘭でございます。そういったことで港を汚さないように、その漁組の方々とも十分話し合いをさせて頂いて行っている。

それから、先ほど座談会の中で、女性の目から見て子供たちに安心できる港をつくるというお話もありましたけれども、室蘭港は施設的にはかなり整備された港であるということで、**今後は港をいかに市民に親しんで頂くか**ということで、風車のある地区に、子供さんが親しめるように、長さにして70m、幅50mぐらい、深さは満潮時でもせいぜい50cmぐらいまで、干潮時は砂遊びができる。そのような施設を開発局の協力を頂きながら整備をしておりますし、今年度は、その先の方の親水護岸の整備を予定しています。

それから、ここでトイレの話も出ました。ジャズクルーズに間に合うように、うちの課長も一生懸命努力いたしまして、何とか間に合わせたということでございます。

それと、**フロートの話**が出ましたけれども、防災



の日に動かしたらどうかというお話もありました。実はあれは、言ってみれば大きな箱だと思って頂いてよろしいわけで、エンジン機能とかいうものは一切ございません。それで、あれを動かすにも曳き船を用意したり、警戒船をつけたりして、ちょっと港内で動かすだけでも、400万円ぐらいの金かかります。ということで、防災の日には市民見学会を我々の職員がつかましては、この船の使用目的等説明をしております。普段は係留施設として、岸壁と同じように使用しています。きょうも多分、あまり大きくない船が二、三、着いていたと思います。今年は樽前山が噴火したという想定で、白老港まで運びまして訓練を実施しております。なるべく室蘭市の人には出来るだけ負担をかけないようにしてますけれども、全国の被災地の救援ためには、やっぱり国なり道なりの補助を頂きながら動かさなければ、なかなかできないということもございます。このように、訓練にも使っておりますので、この地域で何かあった場合にはいつでも対応するという事です。

それから、**世界に目を向ける**というお話がございました。実はきのう、市長からもお話あったように、サファイアプリンセスが来たときに乗船していたイギリスの方から、「父親が第二次世界大戦で日本との戦いで亡くなったということで、日本に寄港するサファイアに乗るのはどうかと、感じていたのだけれども、室蘭に来て、高校生や市民ボランティアの皆様の歓迎を受けて、来て非常に良かった、日本に対するイメージが変わった」といいます。こういう一つの一つのもてなしの心が人の心を変えるということは、お金かけてもできません。言うなれば、もてなしの心でやるのが、その地域が、あそこは良かったというふうにだんだん世界に広がっていく一つの方法なのかと私も感じております。

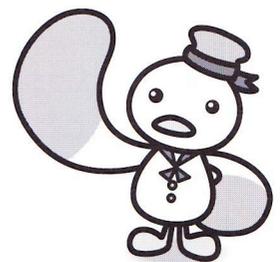
司会 どうもありがとうございました。中島企画官から、話を聞いて感じたこと、ひとつお願いします。

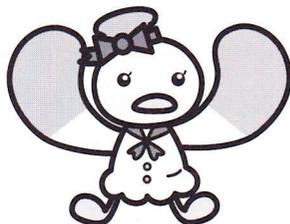
中島企画官 本日は本当にありがとうございました。

皆さんのお話伺って、一つ、非常にすごいなと思ったのがあったのです。何人かの方が言われていたのですが、**地元で生まれ育った人たちにとって、港というのは、当たり前**という話がありましたよね。あれって実はすごく大事というか、大変なことだと思ふのです。たまたま室蘭というのは天然の良港と言われて、実は真ん中に、きょう皆さんにごらん頂いた海というか、港がどんとあって、周りに皆さんが住んでいるという構図があって、それが住んでいらっしゃる方は当たり前ということ、港もあるのは当たり前ということですね。これからいろいろなことを考えていくときに、今まで港というのは、恐らく空気みたいなものだと思うのですよ。でも、考えてみたら、ほかの人たちからこの地元の空気というか、今の港がどういうふうに見えるだろうと思うと、普通、私も職業柄いろいろな港の方と話をしますが、港があって当たり前って案外少ない。港って、あるらしいけれど、何やっているのだろう。さらに言うと、港、確かにあるよね、あるらしいぐらいと言うのがたぶん多いとおもいます。ですから、皆さんのお話聞いていろいろな活動されているなと思ったのですが、港町というのを、多分皆さんもあまり意識していらっしゃらないと思うのですが、根っこにはあると思うのです。何かお説教くさくて変なのですが、頭の片隅にそんなこと言ったやつもいたなと思いながら、これからいろいろなことをやって頂けると、我々、男どもが港をつくる仕事と、皆さんがやられていること、やろうとしていることがうまくかみ合っていくのではないかなと思いました。

もう一つ、おもしろいと思つたのは、**蘭東、蘭西**ということがありました

よね。あれ、実は結構大事だと思うのです。多分、皆さんの地域では、町の中を分ける言葉が当たり前となっているところってあまりないと思う。僕





は、本州の出身なのですが、本州の出身ですと、多分わかると思うのですが、県の中で、悪い意味も含めて、県の南と北がある意味でけんかをするときもあるのです。だけど、一方で、外に向かって県の自慢するときは、その瞬間にみんな同じ県民になるのです。さらに言うと九州ですから、本州に向かって言うときは九州。それって結構、今、蘭東、蘭西の話が出て、西胆振の話も出ましたが、きょうは地域懇談会なのですが、地域って多分室蘭市だけではないと思います。蘭東であったり、西胆振だったり、場面場面で地元というのが結構実は幅があって、それを知った上でいろいろな戦略というのですか、作戦を立ててというのも結構大事だし、当たり前に行っていく考えでいいかもしれないなと思いました。お話聞かせて頂いて、二つ、このことを思いました。

司会 ありがとうございます。

それでは、桑島次長からよろしく申し上げます。

桑島次長 お話を聞かせて頂いて、私も白鳥大橋でできる前だったので、10年ぐらい前に来て、そのころ、今の中央埠頭みたいなのは無いし、今みたいなジャズクルーズみたいなのも無かったし、そしてにぎわいが出来て、白鳥大橋のハッピープロジェクトでないですけど、そういうような位置づけるような取り組みみたいなのが今始まったというのが、非常に私自身も感慨深い。

私も先ほどの追直漁港の近辺を歩いていて、いろいろな種類の魚が豊富に採れて、水もきれいだということで、本当にいいところだと思います。きのうのシンポジウムでは、いろいろ堅い話もありましたけれど、PCBの処理の施設は一般に公開して頂けるし、追直では、漁業の栽培センターそこも一般の方には公開をして頂ける、そういう学習するところも

ある。

個人的にな事を言えば、7月に来てから、フェリーに乗ってみたら、私は、新日本石油精製工場群の照明がすごくすばらしかった。函館山の夜景もいいですけど、何か映画のセットになるような思いがしました。見ていたら、皆さんが白鳥大橋のライトアップに、みんな感動して写真とか撮っているのですよね。そういうのがどンドンンドン発掘されて、先ほどの地域資源ではないですけど、山田さんからあったのかな、自分の好きなことをやりたい、やっていると、やっぱりそれが活動のまず原点、皆さんも同じじゃないかな。別にこの会で何かを決めるというのではないですし、いろいろなお話を聞いて、これからの活動の参考にされるということだと思う。ただ、そういうことをやっていきながら、いわゆる住んでよし、訪れてよしで、自分たちも楽しめるということだと思うのですが、それをどンドンやっていくと、ジャズクルーズなら、せっかくそんなにいっぱい人が来たら、やっぱり中央町の方にいっぱい人が来てもらいたいと思うでしょうし、人が快適に歩くのは500mぐらいが理想と聞きますけれども、そうすると、例えば中央埠頭から、中央町がちょっと遠いなら、もっと近くで、お休みするところを作るとか、そんな発想になってくるでしょう。

私は室蘭では食べ物が今は「やきとり」と「カレーラーメン」、次は絶対「魚だ」と思いますし。それ以外に景色もあるし、良好な環境もある。何かをやるためのきっかけとしての大きなイベントをする。人



に来てもらうきっかけとして、ウォーキングでもいいですし、そんなような取り組みもいいのではないかな。あるいは、そういうことをするのに、**行政は何をするか**。多分行政もやりたいというのがあるのだろうし、先ほど言ったように、港としては、やっぱり地域の経済を支えるという大きな目的がありますから、それもやりますけれども、それとは別に、港というのは、昔からのなりわいがあって、特に追直なんかはそこで生活の匂いがするとか、いろいろな特徴があるところですから、それをどう活かしていくか、あるいはどうもっていくかというときに、皆さんがこんなことやりたい、あんなことやりたいと思って、幾らボランティア的にやるといっても、やっぱり箱物は難しいと思うのです。

そういうときにやりたいこと、あるいは、**どうやったらできるかと、相談を先ずして頂く**、私たちは今は予算も少ないないですから、皆さんと一緒にやっていく流れにあることは間違いない。前に勤務していた四国の高松では宇高連絡船の廃止後の影響をどうしようか言うときに、いわゆる都市開発を進めるなど、いわゆる公共主導の賑わいみたいのもあったが、今はそれとは別に昔農協の倉庫で使われなくなっていた、古い、赤レンガでも何でもない、トタン屋根の小屋なのですけれど、そこを、民間の方が何十万円かかけて、開業、そこがいろいろな人の集まるスポットになって、マスコミで紹介されて、すごく賑わっている。賑わいの核が出来てくると、それを今度は、公共の散策路の整備につながって、それが一般の方の朝のジョギングコースとなり、さら



に賑わっている。

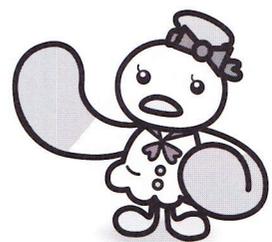
室蘭で考えると、例えば追直などは、それぞれでまず独自に地域で活動をされて、それが広がっていくときはネットワークとして、いろいろな活動の団体と交流、研鑽しながらと発展させるということなのかな。

ちょっと何かとりとめもなく長くなりましたけれど、そのように思いました。

司会 それでは、きょう座談会のメンバーの方から、女性ネットワークの話、あるいはいま、役所の方の話を聞いて、何か、きょう感じたことありましたら、立野さんからでも、お話して頂けますか。

立野さん 本当にきょうは、こういう機会を室蘭で頂きまして、本当にありがとうございました。女性ネットワークの方、それから、NPOの事務局、本当にお世話さまでした。そして、開発局の部長さんを初め、室蘭の次長さん、それから室蘭市の港湾部長さん、課長さんも、それから札幌からも本当に皆さん、貴重な応援のメッセージを頂いたものと感じております。

実は、このメンバーを選ぶに当たりまして、私もいろいろ思案をいたしました。それで実は私、きょうの座談会に出席した人は、面識あるのは菅原さんと中越さんだけで、あとのお三人とは、新聞紙上や遠くから活躍を見させて頂く程度だったのですね。それが何と快くお引き受け頂いて、私としてはもう本当に、室蘭にはまだまだこういうエネルギーがあ





るということを確証させて頂きました。これも、この座談会のおかげですね。人材が室蘭には、まだまだ居ると思うのですね。ですから、次へ続け

というところで、やっぱりこういう人材をどんどんどん幅広いところで活躍頂ける場所を、これから応援していくのがちょっと先輩の役割かななんて、ちょっと手前みそですけれども。それで、きょうは大西さんから、やっぱり苦蘭戦争じゃないんだよと、一つ提案してくださって、向こうで講演するときに、イベントもみんなの力合わせてやろうよと、これがやっぱりすばらしいメッセージだと思うのですね。

我が町のことだけではなくて、やっぱりもっと地域を広げて、みんなで力を合わせていくと出来るという、室蘭も今悩んでいることは、何でもそうなのですけれども、連携がうまくいったらもっといいなということが、もう至るところそういうことなのです。だから、そういう意味でも、今回若手の人といろいろな連携をとらせて頂いたということに、本当に心から感謝の気持ちでいっぱいです。ですから、今度、何かの御縁で、私たちが女性ネットワークの会議がどこかで有るよとか、また何かの機会と一緒に参加できることがあれば、とてもうれしいなと思います。その節は温かく、お付き合いください。きょうの会議で、皆さんの顔を見てると、本当にもう優しいです。それで、本当に言いたいことは、自分の言葉で話してくださるというのが、この北海道女性ネットワークのすばらしいところですので、そんな意味もあって、本当に心から、私司会なんていうのはあまり馴れた仕事ではないのですけれども、別な司会ではちょっとなれていますけれども、それで本当にきょうはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。どうぞまた室蘭港に寄せる思いを、皆さんの応援で私たちも頑張りますので、よろしく願いしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

司会 事務局が締めようと思ったら、先に締められてしまいました。

大西さん きょう私室蘭市の方から頂いたパンフですけれど、これを見ていくと、やっぱり室蘭は歴史がありますよね。いろいろなウォークコースを考えてみてはどうでしょうか。これから団塊世代が定年になります。実際にそこの良さは歩くことによってわかる。また逆に情報が収集できて、裏道にもっといいのが有ったよとか、女性の視点で、歩く目線で港を見ると、室蘭はどこよりも勝っているかもしれないのです。だから、今日の若い方のエネルギーと立野さんの熟年の魅力でコラボレーションしたらいいかかと思います。

司会 長時間にわたる懇談会での話し合いありがとうございました。早朝からの「室蘭港の見学」「みなと座談会」に引続き「地域懇談会」と大変お疲れのことと思います。

また、室蘭港の見学に港湾事務所のご協力を頂きましたことに改めて感謝を申し上げて、これで終わりたいと思います(拍手)



あとがき

「みなと座談会」「地域懇談会」についての本文は紙面の制約等のため、一部省略したり、言い回しを変えた部分があります。また、パネル展でご協力いただきました、当会員企業の方々にお礼申し上げます。